

3歳6か月児健康診査(視力検査)について

子どもの視力は、生まれてから発達を続け、6歳頃にはほぼ完成します。

しかし、強い屈折異常(遠視、近視、乱視)や斜視があると、視力が発達せず弱視になる恐れがあります。それを防ぐには早期発見と早期治療が極めて大切です。

3歳になると、練習をすれば視力検査が可能となります。そこで、ご家庭で視力検査を行い、3歳6か月児健康診査の時に、その結果を視力検査票に記入しご持参下さい。

視力検査の方法

☆ 用意するもの

- ① 練習用視標(大きい輪)と検査用視標(小さい輪)
- ② アイマスク(表がトラで裏がパンダのもの)
- ③ 視力検査表(A4)
- ④ ハサミ
- ⑤ 輪ゴム(2本)

☆ 準備をしましょう

- ① アイマスクの小さい穴にそれぞれ輪ゴムを通し、メガネを作ります。
- ② ハサミで視標(2枚)を点線に沿って切り離し、20cm四方の白い紙に貼ってください。

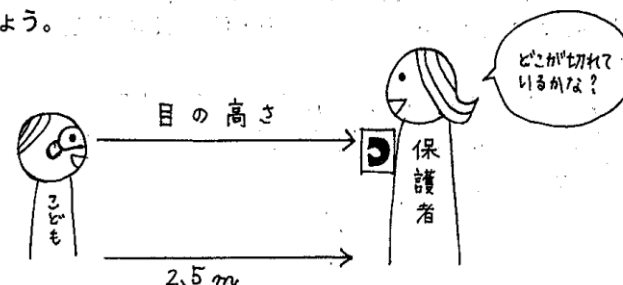
☆ 練習しましょう

- ① お子さんに、近くで練習用視標(大きい輪)を見せて、輪が切れていることを教えます。
- ② 視標を上、下、左、右の4方向に動かして輪の切れ目の方向を、指か手または言葉で答えさせます。



☆ 検査をしましょう

- ① 楽に本が読める程度の明るい部屋で、ゆとりをもって楽しい雰囲気で行いましょう。
- ② 検査用視標(小さい輪)をお子さんから、2.5mの距離に離します。下記の絵を参考にして、お子さんの機嫌の良い時に、遊びながら検査しましょう。



- ③ 最初は両目で検査します。
輪の切れ目を上、下、左、右の4方向に動かして答えさせて下さい。
- ③ 次に片目ずつ検査します。
お子さんにアイマスク(表がトラで裏がパンダのもの)をつけて、右目から行います。この時、隠している目で見ないように、正しくつけて顔をまっすぐにし、正面から見るように気をつけましょう。

検査が上手く出来ない時は・・・

- ◇ 一度検査して、上手く出来なくても、何回か繰り返すと、慣れて上手に出来るようになります。嫌がる時は、別の日に検査しましょう。
- ◇ 輪の切れている方向を上手く指差し出来ない時は、練習用視標をお子さんに持たせて、検査指標を同じ方向に向けさせる方法で行っても結構です。